

NMO OfficeLetter

京都市上京区東堀川のルビノ堀川閉館！



ルビノ堀川

07/26付の京都新聞の報道によると、上京区東堀川にある公立京都府教職員会館である「ルビノ堀川」が2023年3月末をもって営業を終了し、閉館することになった。当会館は、宿泊、宴会などに利用され、場所柄京都府庁に近く、過去にはなにかと公的な会合がよく開催されていた。毎年2月11日の建国記念の祭日には、500歳野球の開会式、抽選会、懇親会なども行われていた。また、修学旅行生の定宿でもあった。数年前には、長期間休館し耐震工事を行っていたはずだ。また、これも数年前に大規模の修学旅行生が集団食中毒にかけ、一時周囲に大型の救急車が待機したりして、話題にもなった施設である。新聞報道によると、このコロナ禍で修学旅行生が激減し、宴会イベント需要も喪失、

加えて市内に新しい宿泊施設が多くオープンし、設備の老朽化もあり、今後営業を続けていくには多額の設備投資が必要で、回収の計画も立たないことから今回閉館、営業終了の結論に至った。今後、跡地の再利用などは未定であるとのこと。立地、環境は悪くないので、マンションなどへの転用、再利用が検討されることになるだろう。

＜解説＞公立系の宿泊宴会施設の閉館、廃業はこれで京都市内では3例目。御所西側の平安会館、京都駅八条口のホテルセントノームに次いで、ルビノ堀川が3番目となる。公的な組合員利用を前提としたこのような施設がここ数年で多く閉館に追い込まれた。公的な施設なので、あまり設備におカネはかけていないが、場所柄立地環境がよく、アクセスは悪くない。しかし、このコロナでイベント、宴会需要が消えてしまった。公的な施設なので、比較的成本も安く大規模な人数の宴会需要があったはずだが、このコロナショックでほとんどの宴会イベントが喪失した。喪失した機会は二度と戻らない。さらに、耐震構造への工事や改装の



ホテルセントノーム

リニューアル工事など多額の投資が今後かかると想定されたのだろう。市内にはご存じのように、ホテル建設ラッシュがまだ止まらない。高級ホテル、超高級ホテルと並んでインバウンド目当てのノーマルなホテルも多く建設された。そのインバウンド需要も現在ではほとんど消えて、修学旅行需要の取り合いになっている。このような超激烈な生き残り戦争には耐えられないと判断したのだろう。ある意味賢明な選択かもしれない。大きな投資をして、そこから坂を転がり落ちるように赤字続きの経営になるより、潮時を見計らって転身するのが得策だろう。場所柄あまりアクセスがいいとは言えない立地環境なので、取り壊した後、何に生まれ変わるか興味津々だ。



平安会館